

学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	指宿市立池田小学校	児童生徒数	21人
-----	-----------	-------	-----

振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等

○ 学力向上委員会での共通理解

改めて、全職員で、「なぜ、振り返りなのか、どうして、振り返りを行わなければならないのか。」「振り返りの具体的な視点について」などについて共通理解を図った。また、子供たちにも発達の段階に応じて「振り返りの重要性」について繰り返し話をしていくことを確認した。

学力向上委員会資料① 2023/11/27

文責：松山

1 なぜ、「振り返り」なのか、どうして、「振り返り」を行わなければならないのか。

学習指導要領総則 第1章第3の1の(4)には、「児童(生徒)が学習の見直しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること」と示されている。

「振り返り」をすることは、授業における自分の学びを確認したり、成長への気付きを促したりすることになり、より深い学びへとつながる。また、「振り返り」から自分の学びへの達成感を得たり、学習状況を捉えたりすることができるようになる。

これらのことから、今後の学習に対して、自分の学び方を見直し、学び方や努力の仕方などについて、見直しを立てて取り組むことができるようになり、学びに向かう力を育成することができる。

2 「振り返り」から期待される効果とは…

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ① 知識・技能等、学習内容の定着 | ② 達成感の確認(学びの実感)    |
| ③ 学びに向かう力の向上     | ④ 学びの捉え直しや応用・発展    |
| ⑤ 新たな「問い」の発見     | ⑥ 自己の生き方を振り返る能力の育成 |

○ 子供たちの振り返りカードから

【5年80字振り返りカード】  
※タブレットでの振り返り  
・「分かったこと」を整理した上で、次時の学習に生かしていきたいという思いを「添加」の接続詞でつないでいる。

【3年40字振り返りカード】  
用紙での振り返り  
・「もっと知りたいこと」を整理した上で、次時の学習活動への思いを「添加」の接続詞でつなげている。

【2年40字振り返りカード】  
※用紙での振り返り  
・低学年では、接続詞で二文をつなげずに、自分が思ったり、感じたりしたこと(もっとやってみよう)を書くようにしている。

取組についての概要 (成果)

- 二つの文章を接続詞でつなげる形式で振り返りを行わせる。学年の実態に合わせて、30字、40字、60字、80字、100字の5パターンのカードを準備して活用している。
- 基本的には、振り返りの視点として「わでかいも」を使用する。また、子供たちの表現の幅を広げていくために「取組の姿勢や態度の自己診断(～を努力した)」や「新たな疑問(～の場合はどうなるのだろう)」、「交流したこと(〇〇さんの発表から～という考え方が分かった)」などの書き方の例を示している。
- 「理解の状況の自己診断(～が分かった・～が分からなかった)」や「満足感や充実感等の味わい(～が楽しかった)」で始まり、最終的には、「学びのつながりや理解の捉え直し(～を活用して考えた・～につながっている)」の視点で振り返りができるように指導していく。
- ※ 振り返りカードを使用し始めた当初は、少ない文字数でも時間がかかったり、「～分かった、～が楽しかった」の表現が多かったりしたが、現在では、自分の学びを的確に振り返ることができる子供が多くなっている。